

(別紙)

温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2)の  
打上げとクリティカル運用期間の終了について  
[国立環境研究所理事長談話]

国立環境研究所では、環境省、JAXA との三機関共同プロジェクト体制のもと、2009年1月に打上げられた温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)に引き続き、温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」の観測データを処理し、主要な温室効果ガスである二酸化炭素とメタンの濃度及び吸収排出量の全球分布を推定するための研究開発を進めてまいりました。昨日「いぶき2号」が予定されていた軌道に成功裡に投入され、さらに本日にクリティカル運用期間を無事終了したことは、大きな喜びです。

「いぶき2号」のデータは、国内外の研究者に提供され、気候変動研究に活用されるとともに、パリ協定を含む気候変動対策の推進に貢献することが期待されています。

今回の成功はそのための第一歩であり、関係者の方々に心よりお祝いと御礼を申し上げます。今後私ども国立環境研究所は、「いぶき2号」の観測データの処理・提供にあたり、気候変動研究に鋭意取り組んでいく所存ですので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成30年10月30日

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 渡辺知保